

2014年度 第2四半期 決算説明会資料

東ソー株式会社
2014年11月6日

2014年度 上期業績総括（経営課題、業績予想）



経営課題

- ① 日本ポリウレタン工業との合併
- ② 安全改革と設備管理
- ③ コモディティ事業の収益改善
 - 新ビニル・チェーンの構築
- ④ スペシャルティ事業の拡大
 - 既存スペシャルティの量的拡大と新規製品の上市
 - エチレンアミンの黒字化

2014年度 当初業績予想（※2014年5月9日発表時点）

単位：億円

摘要	売上高	営業利益		経常利益		当期純利益	
2014年度	8,100	460	5.7%	450	5.6%	520	6.4%
2013年度	7,723	416	5.4%	495	6.4%	296	3.8%
増減	+377	+44	—	▲45	—	+224	—

※1株当たり配当金 中間 5円（合併記念配当＋2円含む） 期末 3円 合計 8円

2014年度 上期業績総括（事業環境）



- 国産ナフサ価格は、2014年度第1Qは下落、第2Qは上昇
- 為替は、当初前提に比べ、ドルは円安で推移

	2013年度			2014年度			
	上期実績	下期実績	通期実績	当初前提	4～6月実績	7～9月実績	上期実績
国産ナフサ (円/KL)	64,750	69,900	67,325	70,000	69,900	71,000	70,450
ベンゼン (\$/T)	1,271	1,292	1,281	1,200～ 1,300	1,289	1,307	1,298
ドル(円)	99	102	100	100	102	104	103
ユーロ(円)	130	139	134	140	140	138	139

2014年度 上期業績総括（連結業績）



単位:億円

	2014年度		当初上期予想差異 ②-①
	当初上期予想 ① (14年5月9日発表)	上期実績 ②	
売上高	3,900	3,840	▲ 60
営業利益	170	186	+ 16
経常利益	160	213	+ 53
当期純利益	100	137	+ 37

単位:億円

	2013年度 上期実績 ①	2014年度 上期実績 ②	前年度上期差異 ②-①
売上高	3,657	3,840	+ 183
営業利益	183	186	+ 3
経常利益	235	213	▲ 22
当期純利益	141	137	▲ 4

2014年度 上期業績総括（当社の状況）



● 14年度上期業績は、当初業績予想比で減収・増益

13年度上期実績比で増収・増益（営業利益）

（1）当初業績予想比

- ① 売上高は、主にクロル・アルカリセグメントの販売数量減などにより減収
- ② 営業利益は、主に機能商品セグメントの販売数量増や交易条件の改善などにより増益
- ③ 経常利益、当期純利益は、営業利益の増加に加え、主に為替差益により増益

（2）13年度上期実績比

- ① 売上高は、以下の要因により増収
 - ナフサなどの原燃料価格の上昇に伴う国内販売価格への転嫁
 - 為替相場が円安に転じたことによる輸出価格の改善
 - 機能商品セグメントの販売数量増 など
- ② 営業利益は、主に機能商品セグメントの販売数量増や交易条件の改善などにより増益
- ③ 経常利益、当期純利益は、主に受取保険金の減少により減益

2014年度 上期業績総括（四半期毎）



単位：億円

	2014年度						
	4～6月	7～9月	上期	下期予想 14.5.9 発表	通期予想 14.5.9 発表	下期予想 14.10.31 発表	通期予想 14.10.31 発表
売上高	1,781	2,059	3,840	4,200	8,100	4,260	8,100
営業利益	51	134	186	290	460	314	500
経常利益	48	165	213	290	450	307	520
当期純利益	22	115	137	420	520	443	580

2014年度通期業績予想は、営業利益、経常利益、当期純利益ともに上方修正
1株当たりの配当金は、年間8円（中間5円、期末3円）を予定

【参考】

	2013年度						
	4～6月	7～9月	上期	10～12月	1～3月	下期	通期
売上高	1,750	1,906	3,657	1,948	2,118	4,066	7,723
営業利益	66	116	183	107	126	233	416
経常利益	117	118	235	133	127	260	495
当期純利益	64	77	141	86	69	155	296

2014年度 連結業績予想



単位:億円

	2014年度		当初予想差異 ②-①
	当初通期予想 ① (14年5月9日発表)	通期予想 ② (14年10月31日発表)	
売上高	8,100	8,100	± 0
営業利益	460	500	+ 40
経常利益	450	520	+ 70
当期純利益	520	580	+ 60

単位:億円

	2013年度 通期実績 ①	2014年度 通期予想 ②	前年度差異 ②-①
売上高	7,723	8,100	+ 377
営業利益	416	500	+ 84
経常利益	495	520	+ 25
当期純利益	296	580	+ 284

事業環境予測

- 中国経済の成長鈍化
- ユーロ圏経済の今後の回復動向
- 資源価格(原油・国産ナフサ価格など)の今後の動向
- 為替相場の今後の動向 など

下期前提

- 国産ナフサ価格 67,000円/KL
- 為替 105円/\$、135円/ユーロ

配当

- 1株当たり配当金 中間5円(うち、合併記念配当+2円) 期末3円 合計8円

各セグメントの取り組み

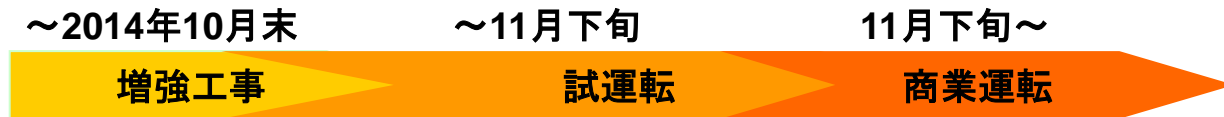
クロル・アルカリセグメント（化学品事業など）

2014年度上期の主な取り組みなど

● VCM(塩化ビニルモノマー)

- 南陽、四日市両事業所合わせ、ほぼフル稼働で生産(下期、同稼働を計画)
- 南陽事業所 第三VCM製造設備の生産能力を増強(2014年10月末完工)

＜参考＞ 商業生産開始に向けた取り組み



● PVC(塩化ビニル樹脂)

- 大洋塩ビ千葉工場の生産能力を増強(2014年10月完工)
- 今後需要拡大が見込まれるインドネシアでのPVC生産能力増強を検討中

● カセイソーダ

- 両事業所合わせ、電解設備は約80%稼働で生産(下期、90%稼働を計画)
- 国内価格修正を実施

● 売電

- 中国電力への電力供給継続

クロル・アルカリセグメント（化学品事業など）



参考資料

1. VCM、PVCの生産能力

単位：万トン/年

VCM生産能力		現在	増強後
南陽	第一VCM	25	25
	第三VCM	40	60
四日市		25	25
合計		90	110

PVC生産能力		現在	増強後
大洋塩ビ		56	57
徳山積水		12	12
ペースト塩ビ		3	3
東ソー広州		22	22
PRII社		10	10
スタマー社		9	9
合計		112	113

2. カセイソーダの生産能力

単位：万トン/年

カセイソーダ	生産能力
南陽	113
四日市	18
合計	131

※東北東ソー化学(酒田)は年産7万トン

カセイソーダの生産量について(両事業所合計)

80%電解稼働時 : 約100万トン



90%電解稼働時 : 約115万トン
(約15万トン増量)

クロル・アルカリセグメント（ウレタン事業）

2014年度上期の主な取り組みなど

● ウレタン事業

- 日本ポリウレタン工業と合併(10月1日)
- MDI(ウレタン原料)は、約90%稼働で生産(下期、約95%稼働を計画)
 - フル生産の中、高付加価値製品へのシフト加速
「汎用品」から「特殊品」、「MDI単品販売」から「ポリオールとのシステム販売」へ
- 機能性ウレタンは、既存製品の拡販・事業強化と新規品開発を推進
 - 医療分野で使用されるシール材などの拡販
 - HDI(自動車、船舶などの無黄変塗料硬化剤)事業の基盤強化
- ウレタン研究所を中心とした各研究所との連携により、新規事業分野を創出

<参考> MDIの事業環境(当社推定)

- 2015年半ば以降、競合各社の増強計画あり、需給バランスは悪化方向

	2013年度		2017年度
世界需給バランス(需要/生産能力)	約90%	⇒	約80%

➡ MDI、機能性ウレタンともに高付加価値化で対応

2014年度上期の主な取り組みなど

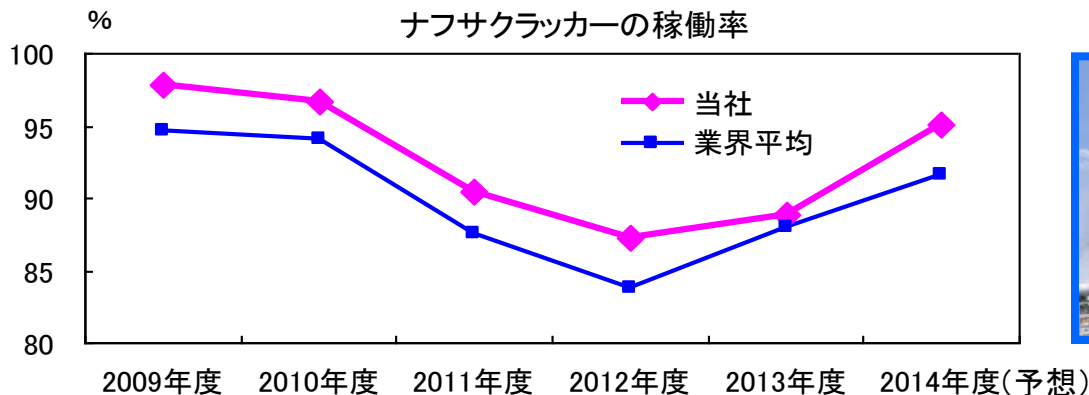
● オレフィン事業

- 事業環境に柔軟に対応したナフサクラッカーの生産・販売体制の構築（ナフサクラッカー稼働率：上期実績 約95%、下期計画 約95%）
- エチレン大量購入を梃子としたナフサクラッカー高稼働の維持を計画
- 原料コストに適正なスプレッドを乗せた製品価格体系の構築とその利幅拡大
- より競争力あるエチレン、ベンゼンの安定調達の追求

<参考> 当社ナフサクラッカーの特長について

- 中京地区唯一のナフサクラッカー
- エチレン自消率が高く、購入ポジション

常時、業界平均を上回る
ナフサクラッカー高稼働を実現



2014年度上期の主な取り組みなど

● ポリマー事業

● ポリエチレン（PE）の高付加価値化推進

● 121℃滅菌対応輸液バック用PEグレードの上市（2014年4月）

特長

・ 従来の透明性、柔軟性を保持しつつ、高温での滅菌に対応

ユーザー メリット

・ 短時間滅菌が可能となり、生産性が向上

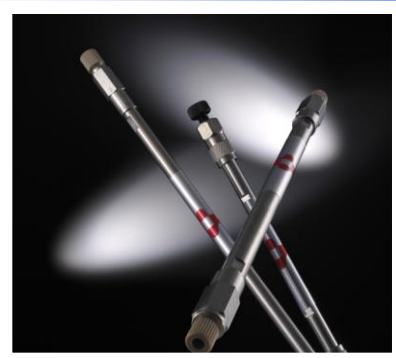
・ ポリプロピレン製では必要となる、添加剤・改質剤が不要で、コスト低減が可能

● 機能性ポリマー（PPS樹脂、合成ゴム〔CR・CSM〕、ペースト塩ビ、石油樹脂） 高機能化・特殊化グレードの拡販に注力

● 【 PPS樹脂 】 金属接合用グレード など

● 【 CR 】 硫黄変性グレード、
金型非汚染改良グレード など





バイオサイエンス事業

<計測分野>

高速液体クロマトグラフィー
カラム
分離精製剤

<診断液クロ分野>

糖尿病検査機器

<免疫検査分野>

免疫検査機器
体外診断薬

<遺伝子検査分野>

遺伝子検査機器



有機化成品事業

アミン

臭素・難燃剤

環境薬剤



高機能材料事業

ジルコニア

合成ゼオライト

マンガン酸化物

石英ガラス

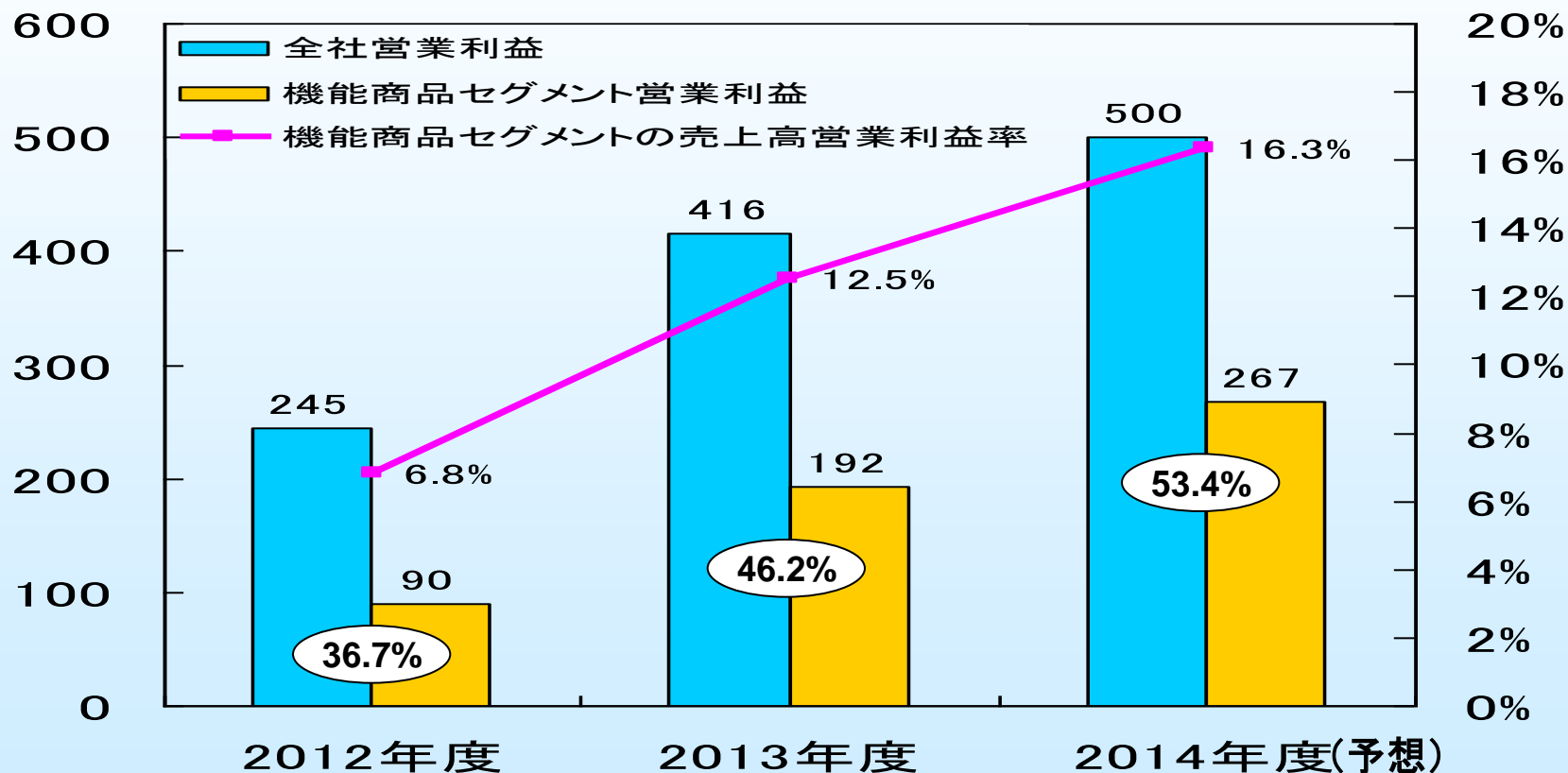
スパッタリングターゲット

機能商品セグメント(営業利益、売上高営業利益率)



スペシャリティ事業の拡大

- 既存スペシャリティの量的拡大と新規製品の上市
- エチレンアミンの黒字化



※ 機能商品セグメントの全社における売上高割合は約20%

※ ○% 内は全社利益における機能商品セグメント利益の割合

2014年度上期の主な取り組みなど

● 計測分野

- バイオ医薬品産業向け製品(カラム、分離精製剤)の超高速分析対応グレード上市に向けた取り組み

● 診断分野

- 遺伝子検査装置の新機種、新試薬を上市(2014年9月)

特長

- ・ 従来に比べ、測定時間を短縮(60分⇒40分)
- ・ 1テストごとの試薬包装で無駄のない測定が可能



- 免疫検査機器の新機種、新試薬を上市(2014年10月)

特長

- ・ 従来に比べ、測定時間を短縮(19分⇒15分)
- ・ 1テストごとの試薬包装で無駄のない測定が可能



両機器ともに

ユーザー メリット

- ・ 迅速報告による待ち時間の短縮化
- ・ 無駄のない試薬包装形態により、コスト低減が可能

- 新規臨床検査機器の上市に向けた取り組み

- この上市を受け、試薬の生産能力増強計画に着工(2014年11月)

2014年度上期の主な取り組みなど

● エチレンアミン(EA)

- ほぼフル稼働で生産(下期、同稼働を計画)
- 高収率で生産可能なハイアミン中心の生産、販売を継続
- 国内外価格修正を継続



<参考> エチレンアミンの事業環境

- 世界的に需給バランスの改善が進む(ローアミンはウエル、**ハイアミンはタイト方向**)
- 特にシェールガスの掘削関連を中心とした米国でのハイアミン需要増は顕著



価格重視の販売、ハイアミンシフトの製造で対応

● アミン系環境対応型ウレタン発泡触媒(RZETA®)

- RZETA®製造設備の新設に向けた取り組み(2014年11月完工)

<参考> 商業生産開始に向けた取り組み

～2014年11月

新設工事

2014年12月

試運転

2015年1月～

商業運転

2014年度上期の主な取り組みなど

● ハイシリカゼオライト(HSZ[®])

- ほぼフル稼働で生産（下期、同稼働を計画）
- 自動車排ガス浄化触媒、石化触媒向けの拡販
- 南陽事業所における生産能力増強に向けた取り組み（2014年11月完工）

<参考> 商業生産開始に向けた取り組み

～2014年11月

2014年11月～2015年3月

2015年4月～

増強工事

ユーザー認定取得作業

商業運転

● ジルコニア(Zpex[®])

- 前歯用透光感グレード(Zpex smile[®])を本格販売（2014年4月）
- 装飾品用途への拡販

● 化学合成法マンガン酸化物(CMO[®])

- 商業生産開始に向けた取り組み
（ユーザー認証取得作業継続中）



新規製品の研究開発

研究開発の主な取り組み

重点領域

- 「ライフサイエンス」、「環境・エネルギー」、「電子材料」

研究開発の主な取り組み

● ライフサイエンス

- 免疫検査試薬の開発
- 遺伝子検査試薬の開発
- 抗体医薬精製用高機能分離精製剤の開発
- 早期がん検査技術の開発

● 環境・エネルギー

- 自動車排ガス浄化触媒および石化触媒用ハイシリカゼオライトの開発
- 自動車用リチウムイオン二次電池正極材料に適したマンガン系酸化物原料の開発
- 焼却灰、廃水、土壌処理用の重金属処理剤の開発
- 希少資源回収用貴金属吸着剤の開発

● 電子材料

- フレキシブルディスプレイ用耐熱樹脂基板材料／配線材料の開発
- 有機ELディスプレイ用正孔輸送材／電子輸送材の開発
- 液晶ディスプレイ用高機能フィルム材料の開発
- 次世代半導体配線用有機金属化合物材料の開発

トピックス

全自動化学発光酵素免疫測定装置
AIA[®]-CL2400を販売開始
～甲状腺検査試薬3項目も同時に販売～
自動遺伝子検査装置
TRCReady[®]-80を販売開始
～抗酸菌核酸検出試薬も同時に販売～

新たな研究開発体制について

- 技術分野別・機能別に組織改正し、新規事業・新製品の創出を目指す



※ は旧組織